

**介護福祉士養成校設置に関する基本協定締結式  
県南地域で初の介護福祉士養成校**

8月8日、ホテルサンルート白河（新白河駅前）で、社会福祉法人真徳会（渡部芳徳理事長）が「しらかわ介護福祉専門学校（仮称）」をマイタウン白河3階に設置するための締結式が行われました。鈴木市長は「まちの活性化にもつながるため、全面的に協力していきます」とあいさつしました。

県南地域で初の介護福祉士養成校は、二学年制で生徒数は一学年40人の合計80人、高校卒程度と社会人枠を設け、平成29年4月に開校する予定です。



▲協定書を締結した鈴木市長と渡部理事長（右）

**あったかセンターのんびりサロン女石がオープン  
歌や体操で楽しいひとときを**

7月22日、女石自治会館に市内16か所目の高齢者サロン「あったかセンター」のんびりサロン女石がオープンしました。当日は約30人の方が集まり、オープニングセレモニー後に第1回目のサロンが開催されました。高齢者サポーターの運営で歌や体操、茶話会などが行われ、楽しいひとときを過ごしました。

高齢者サロンは、介護予防や生きがいを目的に自由に集える場所で、このサロンは毎月第4火曜日の午前10時から11時30分まで行われます。



▲楽しく体操をする参加者

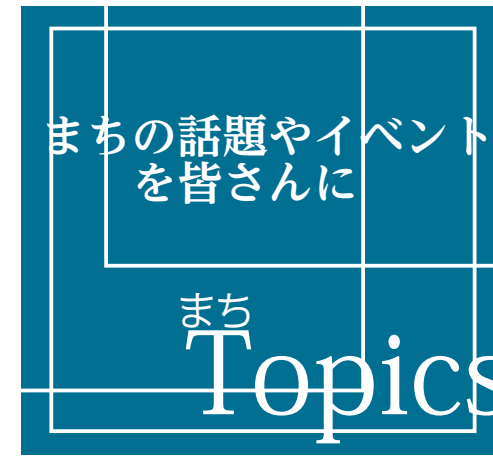
**Shirakawa Week2014シンポジウム  
それぞれの観点で白河の未来を考える**

「Shirakawa Week」は白河地方出身の大学生たちが主体となって3年前から活動しています。今年は8月3日から13日までの期間、地元の高校生と様々な取り組みを行い、交流を図りました。

8月9日には、市立図書館りぶらん（道場小路）で「高校生と地元のアラサーが考える白河の未来」をテーマにシンポジウムが行われ、地域に誇りを持つことや若者の感性を大事にすることなどの意見が出されました。



▲熱い討論を交わす6人のパネリスト



▲小峰城を望む絶好のロケーションで踊る参加者

**白河関まつり&しらかわ魂 80's  
おそろいの浴衣で息の合った踊りを披露**

8月3日、JR白河駅前イベント広場と小峰通りで白河の夏を彩る「白河関まつり」が開催されました。小峰通りでは、「しらかわ伝統芸能フェスティバル」が行われ、高円寺阿波踊り、相馬盆踊り、地元の安珍歌念仏踊りが披露されました。「白河関の踊り流し」では昨年を上回る21団体約千人が参加し、おそろいの浴衣と息の合った踊りで沿道の観客を魅了しました。夜には市民納涼花火大会が行われ、城山公園から打ち上げられた5千発の花火に、多くの感嘆の声が上がりました。

また、JR白河駅前イベント広場で2日・3日に行われた「しらかわ魂 80's」では、会場が80年代の雰囲気再現され、大勢の来場者でにぎわいました。



▲しらかわ魂のステージイベント

**市民文化会館（仮称）建設工事現場見学会  
普段見ることのできない工事現場を見学**

8月2日、市民文化会館（仮称）建設工事現場（会津町）で、夏休みの小学生を対象に親子現場見学会が開催されました。

参加者たちは、施設概要や現在進めている工事内容について、クイズを交えた説明を受けた後、いつも扉に囲まれ見ることのできない工事現場に入り、重機の試乗や測量機器の操作を体験しました。参加した子どもたちは普段出来ない体験に、とても興味深い様子でした。



▲説明を受ける参加者たち